

# 生物的防除部会 平成29年度 第1回講演会のお知らせ

下記のとおり生物的防除部会 平成29年度第1回講演会を開催いたします。

演題は「気門封鎖剤とハダニおよびカブリダニに関する知見」と「果菜類や花きなどの難防除害虫/ミナミキイロアザミウマに関する知見と防除」の2題です。会員各社の普及担当・営業担当の皆さんは関心の高い話題と思います。

会員の皆様には是非ご参加ください。また、会員でない方も歓迎いたしますので、是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

## 記

日時： 平成29年6月15日（木） 午後3時00分～5時00分

場所： 東京農業大学 1号館 2階 211教室  
世田谷キャンパス案内図参照

講演会： 演題1 「気門封鎖剤のハダニおよびカブリダニに対する影響」

元 野菜茶研・東海物産（株） 浜村 徹三 氏

### < 講演要旨 >

ハダニの防除はカブリダニを用いたIPMが極めて有効である。殺ダニ剤でカブリダニに影響の無い剤は始めはうまくいくが、すぐに抵抗性が出て使えなくなる。（例えばダニサラバ、スターマイトなど）。薬剤抵抗性が付かないと言われる気門封鎖剤はハダニへの効果、カブリダニへの影響は必ずしも明らかではない。8種類の薬剤を用いて、ナミハダニ、ミヤコカブリダニ、チリカブリダニに対する影響を明らかにした。この種の試験は方法によってかなり振れがあると考えられるが、1事例として情報提供したい。

演題2 「ミナミキイロアザミウマの過去・現在～生物防除を中心に～」

元 農研機構・野菜花き 河合 章 氏

### < 講演要旨 >

ミナミキイロアザミウマが重要害虫化したのは、日本が初めてであり、その後、世界各地に拡大した。当初は、有力天敵がいないとされたが、その後、ヒメハナカメムシ類が有力とされ、利用のための研究が進められ、さらに多くの天敵が利用されるようになった。

本種の発生の経緯、天敵利用研究の進展等について述べる。最後に、本種が「生物兵器」として利用された問題についても述べる。

なお、講演会終了後、講演者らを囲んでの懇親会（参加費3000円）を予定しています。ぜひご参加ください。

↑ 講演会への参加申し込み・お問い合わせは

生物的防除部会会長 和田哲夫 [wada\\_tetsuo@yahoo.co.jp](mailto:wada_tetsuo@yahoo.co.jp) までお願い致します。